



発掘調査の概要

平城宮第一次大極殿院西楼出土の木簡

西楼の調査で多数の木簡が見つかったことは前号で報告しましたが、その後も現場から持ち帰った木簡を含む土から遺物を洗い出す作業を続けています。持ち帰った土はコンテナに400箱あまりです。

木簡が見つかった穴は、西楼の全部で16基ある掘立柱の柱穴のうち、実に13基に及びます。柱抜き取り穴は深さ3mにも及ぶ巨大なものですが、深さ1mあまりのところに帯状に堆積した木屑層があり、木簡は主にこの層から出土しました。どの穴も抜き取り穴を埋める最終段階で、木簡を含む木屑を集中的に投棄しているようです。ただ、地下水の状況があまりよくなく、木簡は本来もっとたくさんあったと考えられますが、木屑層が腐蝕してしまっている柱穴も多数ありました。

この他、大極殿院南面の築地回廊の造営に先だっ



て周辺を整地した土からも、国郡里制(701年～717年)の表記の荷札などの木簡がみつかりました。平城遷都に伴う大極殿院造営段階の史料として注目されます。

現在、木簡の洗い出しとともに鋭意整理・解読を進め、秋の発掘速報展(11月1日(金)～21日(木))で西楼出土木簡を公開・展示できるように準備を進めていますので、ご期待ください。

「此所不得小便」の木簡
(このところ小便するを得ず)

(平城宮跡発掘調査部 渡邊晃宏)